

公務災害防止事業の推進

▶ 安全管理セミナーを実施して ◀

公益財団法人神奈川県消防協会

1. はじめに

神奈川県は日本列島のほぼ中央に、また、関東平野の南東部に位置し、北は東京湾に、南は相模湾にそれぞれ面し、西は山梨、静岡の両県に隣接しています。

本県の面積は、平成26年10月1日現在で2,415.81平方キロメートル(国土地理院データ)です。その地形は大きく分けて、西部は山地、中央は平野と台地、東部は丘陵と沿岸部の三つに分けられます。

山岳は箱根と丹沢山塊で1,500m級の山々は「神奈川の屋根」といわれています。県の中央部を貫流する相模川や西部を流れる酒匂川さかわがわは、県の重要な水資源として、高度利用されています。また、全国の主な湖の中で7番目に高い位置にある芦ノ湖をはじめ、相模湖、津久井湖、丹沢湖、宮ヶ瀬湖など水資源利用のための人造湖があるのが特色です。426kmの海岸線は変化に富み、東京湾側京浜地帯は高度に発達した港湾となっています。

また、富士箱根伊豆国立公園の一角をなしている箱根や湯河原の温泉地帯、丹沢の山岳地帯や4つの県立自然公園があり、また、京都、奈良とともに史跡名勝を有する「歴史の都」鎌倉など、本県は産業、文化とともに豊かな自然環境と観光資源に恵まれた郷土となっています。

人口は、平成28年6月1日現在9,146,101人で、人口密度は3,786人となっております。

2. 神奈川県消防協会の概要

神奈川県の協会は、大正15年に消防の改善・

発達を図ることをもって、消防組員及び消防員を正会員として設立されました。昭和6年に内務大臣の許可を得「財団法人神奈川県消防協会」となりました。消防協会は、消防組の後援団体として活動しておりましたが、昭和14年に消防組が警防団となったため、昭和15年に内務大臣の許可を得「財団法人神奈川県警防協会」となりました。昭和26年には、神奈川県知事の許可を得「財団法人神奈川県消防協会となり、法律の改正により平成25年6月に「公益財団法人神奈川県消防協会」となり現在に至っています。59消防団・約18,000人の消防団員が、消防職員とともに県民の生命、身体、財産を守るため、日夜、献身的に尽力しているところです。

先輩方のたゆまぬ努力により消防力の充実強化が図られ、近年の複雑多様化、大規模化の様相を示す災害に対応すべく、県と共催し、全消防団員が8年に1度は県消防学校での教育訓練、地震対策等の研修が受講できるよう事業計画を立てています。

当協会といたしましては、防災関係機関と連携し、消防職団員の福利厚生、防災知識及び防災技術の向上並びに消防活動の強化を図るとともに防災思想の一層の普及、啓発等の事業を推進しております。

3. 消防団員安全管理セミナー開催の経緯

神奈川県消防協会では、毎年消防団副団長研修会に合わせ安全管理セミナーを実施しています。平成22年までは、全国でも珍しい消防団員

保養所「まとい荘」(箱根町強羅にあり当協会が運営しておりました)において開催されておりました。

県下各消防団の情報交換を行いつつ、副団長としての心構えや、部下指導について有識者の講義を受けスキルアップを図ってまいりました。また、安全管理についての講義も実施しておりましたが、なかなか効果が上がらない中、消防基金の講師をお迎えして当セミナーを開催することにより、公務災害の発生抑止に貢献することができるようになりました。毎年この研修を継続実施することにより、1件でも消防団員の負傷事故を減ずるよう開催しております。

4. 消防団員副団長安全管理セミナーの様子

平成28年7月4日(月)、神奈川県消防学校において、消防基金S-KYT指導員の上木原様をお招きして「安全管理セミナー」を開催し、副



団長57名が参加しました。

地元川崎市出身でもある上木原講師には、公務災害の発生状況、地域にあった事故・事例、幹部としての心構え、組織としての対応等、実例を踏まえて、分かりやすくご講義をいただきました。

また、健康管理のため、ストレッチ体操、最近発生した大災害での教訓、安全確保についてもご説明を頂きました。

5. 今後の取組

継続して「安全管理研修」を開催するとともに「公務災害ゼロ」をめざし、今後はより実践的に「潜在的な危険」を予知し、回避できる能力を身につけるべく、S-KYT研修の開催を計画してまいりたいと思っております。

最後にこのような機会を与えてくださいました消防団員等公務災害補償等共済基金の皆様に感謝申し上げます。

